

平成 24 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス					
教科目名		歴史		担当教員	
		関口哲矢 (非常勤)			
学年学科	2年 全 学科		通年	必修	2 単位
学習・教育目標	( A - 1 ) 1 0 0 %				
<b>授業の目標と期待される効果：</b> 日本の近代史・現代史（近現代史）を中心に学習する。 過去の出来事から何かを学び取る行為は、特別なことではない。皆さんも、今までの経験を反省し、現在や将来に生かそうとすることは多いと思う。授業では、皆さんの経験よりもはるかに長い近現代という時間のなかで起こった政治・経済・文化などさまざまな出来事の意味を考察することによって、今後の日本のあり方を主体的に考える力を養ってもらいたいと考えている。 [身につけたい力] ① 近現代史のなかの主要な出来事や人物が理解できる。 ② 歴史的な出来事を図や文でまとめ、説明することができる。 ③ 自ら調べ、考えるなどの主体的な姿勢・能力が身につけられる。 ④ 歴史的な出来事を、論理的に関連づけて考えられる。 ⑤ 過去の出来事から学んだことを、現代の問題として考えられる。			<b>成績評価の方法：</b> 前期：中間・期末試験各 100 点＋平常点（課題提出を含む）50 点 後期：中間・期末試験各 100 点＋平常点（課題提出を含む）50 点 学年：前・後期の総得点を合計し得点率（%）で成績を付ける。 <b>達成度評価の基準：</b> 以下の各要素についての達成度を成績評価の基準とする。 ① 近現代史のなかの主要な出来事や人物が理解できたか。 ② 歴史的な出来事を図や文でまとめ、説明することができたか。 ③ 自ら調べ、考えるなどの主体的な姿勢・能力が身につけられたか。 ④ 歴史的な出来事を、論理的に関連づけて考えられたか。 ⑤ 過去の出来事から学んだことを、現代の問題として考えられたか。		
授業の進め方とアドバイス：授業は基本的に教科書と図表を使用した講義形式で行う。必要に応じてプリントを配布し、授業内で作業をしたり意見を求めたりすることもある。ノートの取り方を工夫したり、疑問をもって自ら考えたりするなどの主体的な態度で臨んでほしい。					
教科書および参考書：『詳説日本史』（山川出版社）を教科書とし、『最新日本史図表』（第一学習社）を副教材として使用する。					
<b>授業の概要と予定：前期</b>					
第 1 回：オリエンテーション（授業概要と歴史を学ぶ意味）					
第 2 回：世界のなかの日本（19 世紀の世界と日本）					
第 3 回： // （開国、幕末の動乱）					
第 4 回：日本の近代化（明治維新）					
第 5 回： // （明治新政府による諸改革）					
第 6 回： // （近代国家の整備）					
第 7 回： // （自由民権運動、東アジアの情勢と日本）					
第 8 回： // （日清戦争、台湾征服戦争）					
第 9 回：中間試験					
第 10 回：アジアへの進出（日英同盟、日露戦争）					
第 11 回： // （韓国併合）					
第 12 回： // （産業の発達と日本社会）					
第 13 回： // （第一次世界大戦）					
第 14 回： // （大戦後の国際秩序、大正デモクラシー）					
第 15 回： // （世界恐慌、軍縮の破綻）					

期末試験	
第16回：フォローアップ（期末試験の解答・解説など）	
授業の概要と予定：後期	
第17回：昭和の戦争	（満州事変）
第18回：        "	（5.15 事件と 2.26 事件）
第19回：        "	（日中全面戦争、第二次世界大戦）
第20回：        "	（アジア・太平洋戦争）
第21回：        "	（植民地政策）
第22回：        "	（戦争のもとでの国民生活）
第23回：        "	（「大日本帝国」の崩壊）
第24回：        "	（戦後の処理）
第25回：中間試験	
第26回：世界のなかの日本（冷戦と講和、「逆コース」）	
第27回：        "	（日米安全保障条約、高度成長）
第28回：        "	（冷戦の終結）
第29回：現代社会の問題（国内問題）	
第30回：        "	（国際問題）
第31回：改めて歴史を学ぶ意味を考える	
期末試験	
第32回：フォローアップ（期末試験の解答・解説など）	